

2019年度 - 12月 - (園だより)

2019年度主題 ことばに満たされて～ひびきあう～

12月主題 喜ぶ

12月の願い

クリスマスの本当の意味を知り、イエスさまのお誕生を喜び祝う

喜びや感謝・賛美を心を合わせて表す

イエスさまのみこころに叶った自分たちにできることを考え心や手を動かす

世界の国々の人々のことを知る

さんびか きよしこのよる

聖句 きょうダビデのまちで、あなたがたのために、すくいぬしがおうまれになった。
このかたこそ、しゅメシアである。(ルカ2:11)

クリスマスの本当の意味とは

12月に入りクリスマス会に向けて、子どもたちの練習にも熱が入ってきました。7日のクリスマス会では子どもたちは今与えられた力を用いて精一杯歌い、踊り、演じ、イエス・キリストの誕生を祝います。自分のお子さんだけでなく、どの子どもに対しても精一杯の拍手と応援を頂けますよう宜しくお願い致します。

クリスマス会で黄組の子どもたちはイエスの降誕劇を演じます。今月はこのイエスの降誕、クリスマスの本当の意味を皆様にお伝えしようと思います。イエスの誕生の時、イスラエルを支配していたローマ皇帝アウグスティスは徴税と徴兵のために属国の民に住民登録を課しました。この住民登録は現在住む場所ではなく、生まれ故郷に帰って登録しなければなりません。この登録は支配国ローマの徴税・徴兵のためのものであり、属国であるイスラエルの人々にとっては、納得のできるものではなかったのです。イエスはこの暗い思いでローマに従わなければならなかった人々の中で誕生しました。(住民登録の為に多くの人々が旅をしていましたから、実際には宿屋にあぶれ、家畜小屋で一晩を過ごしたのはマリアとヨセフだけではないと思います。)また救い主イエスは暖かい綺麗な部屋で生まれたのではなく、冷たい隙間風が吹き込む、動物の匂いがただよう家畜小屋で生まれたのです。

最初に救い主イエスの誕生を伝えられたのは、当時の王や富裕層ではありませんでした。羊飼いや占星術の学者たちだったのです。羊飼いはユダヤ社会ではアムハーレツ(地の民)と呼ばれた人々です。当時、最も過酷な仕事をしていて彼らは、日々羊の世話に追われ、安息日の礼拝が守れないという事で、人々から罪人だと考えられ、差別された人々でした。また占星術の博士とは異教の神様を信じる外国人を表します。彼らもまたユダヤ社会においては忌み嫌われた人々です。

イエスはこの世の最底辺に生まれました。支配国の命令に逆らわなければならない暗く貧しい人々の間で、また寒く臭い家畜小屋の中でイエスは生まれました。最初に祝いに来たのはユダヤ社会で最も差別される羊飼いと、嫌われる異教の博士たちでした。クリスマスの本当の意味とは、この世において、小さくされた人々に、神の愛、光(イエス)が与えられた事を表します。

イエスが誕生して2000年以上が経過した現在、イエスの時代に比べれば人間一人一人は大切にされるようになっています。しかし、悲しい事に現在においても、差別や迫害、争いが存在します。差別され、虐げられ、十分な食料を得る事のできない子どもたちがたくさんいます。クリスマスのこの時、この世界が更に一人一人の命を大切にする社会になるようにお祈り下さい。またクリスマスにおいて皆様に献金をして頂きますが、この献金は日本基督教団教育委員会を通して、世界の貧困や争い、災害によって困っている子どもたちの為に用いられます。(詳細は既にお配りしている「みんなで生きよう」をご覧ください。)どうぞ協力頂けますよう宜しくお願い致します。

子供の家幼稚園 園長 葛井義頭